

科目名 老年看護学実習(健康支援)	配当時期 3年次	講義担当者
時間割表記名	単位数 2単位	隈部 直子
老年看護学実習(健康支援)	時間数 90時間	
事前学習内容 実習要項に準ずる		
科目全体のねらい・授業目標 【実習目的】 健康障害を持つ高齢者とその家族の特徴を理解し、生活機能の回復に向けた看護について理解する。 【実習目標】 1. 健康障害のある高齢者の身体的・精神的・社会的・霊的特徴を理解できる。 2. 健康障害のある高齢者の生活機能回復に向けた援助が実践できる。 3. 健康障害のある高齢者に起こりうる問題を予測し、必要な看護を実践できる。 4. 健康障害のある高齢者とその家族と、人間関係を構築することができる。 5. 健康障害のある高齢者へのチームアプローチの実際と看護師の役割について理解できる。 6. 保健医療福祉チームの一員として自覚を持ち、専門職業人として望ましい態度がとれる。		
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。 DP6. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる。		
授業の流れ 本実習では、健康障害を持つ高齢者の身体的・精神的・社会的・霊的側面を理解し、生活機能の回復に向けた援助を行う。その中で、高齢者の今まで培ってきた経験による強みやプラス面に着目した看護について実践を通して学ぶ。また、入院中に退院後の生活の再構築を目指すため、高齢者が生きてきた生活背景や価値観を捉え、高齢者を支える家族についても家族役割の変化や心理変化を理解したうえで、退院後の生活を見据えた生活指導やチームアプローチ等の退院に向けた取り組みについて学ぶ。さらに、看護の対象者を生活者として捉え、健康障害とそれに対する治療、個別性のある看護、多職種におけるチームアプローチなどの実践や知識をもとに看護実践をする中で、自己の老年観について言語化し、カンファレンスで共有し深める。		
評価 ルーブリックに沿って評価する。		
使用するテキスト ① 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 臨床看護総論 医学書院 ② 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 成人看護学総論 医学書院		

③ 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院

④ 系統看護学講座 専門分野 老年看護・病態・疾患論 医学書院

他 既習のテキストを活用する

参考文献